説教余滴 2018 年 6 月 3 日、良い景色です。

40 年以上も前のことが思い出されます。
冬のある日、家内の伯父が同じ町内に住んで居られた。手すき和紙の技術指導者として、高知から招かれ、長く指導し、敬愛され、町内に住宅を建てていただき、老後を過ごしていた。お尋ねするのは何回目だったろうか。趣味の一つが盆栽。私には全く分からないことの一つ。盆栽を作るのは、たいへん手間がかかり、まるで子育てと一緒、という話を聞いたことがある。庭の陽あたりの良い場所に低い棚が作られ、たくさんの盆栽が置かれていました。おじいさんは、本当に可愛い孫を見るように一つ一つを慈しんでいました。
「これは、今作っているんだけど、ケヤキの寄せ植え。どうです？」、感想を求められました。浅く平たい鉢に土を盛り上げ、10 センチにもならない細いケヤキが 10 本植えられています。どのように言えば良いのだろうか。けなすつもりはない。褒めるべきだろうが、何を褒めればよいのかわからない。一枚の葉もついていないケヤキ、細いけれどしっかりした感じを与える幹と天をさす枝
の姿。乱雑に並んでいるようだけれどその配列も自然に見えるように工夫されているんだろうな。なんだか良い景色が見えるようだ。
「ふん、ふん、なんだか良い景色ですね。」

おじさんは、この言葉をたいへん喜んでくれました。私の内に盆栽鑑賞の能力があることを認め、ぜひこの鉢を持って帰り、育てなさい、とまで言ってくれました。ありがたいことでしたが、当時の生活では、置くべき場所がなく、守り、育てることができない、と考え、残念ながらお断りしました。
一鉢の中に、大きな自然を感じようとする盆栽。完成することのない不思議な芸術。
三要素があるそうです。根張り、幹、枝配りを兼ね備えたものが理想的とされます。たとえ一つが欠けていても、長所を伸ばしてやる。まことに奥深い子育てですね。